

消 化 器

科目責任者 入 澤 篤 志
学年・学期 3 学年・1 学期

I. 前 文

本講義は、消化管（口腔・食道・胃・小腸・大腸・直腸・肛門）、肝臓・胆道・膵臓、腹膜等の腹腔内諸臓器における疾患の病態・診断・治療についての内容となる。また、本講義では「臨床推論学」を取り入れており、4つの症候に関して、臨床と基礎、内科と外科、といった多角的な視点での講義も行う（統合型講義）。

なお、本講義はActive learningを取り入れており、事前学習資料を基に、授業内容に関する予習を確実に行ってすることで、実際の講義内容の理解がより深まる。

II. 担当教員

内科学（消化器）	（入 澤 篤 志）
外科学（上部消化管）	（小 嶋 一 幸）
外科学（下部消化管）	（水 島 恒 和）
外科学（肝・胆・膵）	（青 木 琢）
口腔外科学	（川 又 均）
病理診断学	（石 田 和 之）
薬理学	（藤 田 朋 恵）
埼玉医療センター 消化器内科	（玉 野 正 也）

III. 一般学習目標

基礎医学で習った知識を前提に、消化器臓器の構造、各疾患の病態・診断・治療について理解し、Clinical Clerkship、その後の医師国家試験に対応できる十分な知識を得ることを目標とする。

IV. 学修の到達目標

- （1）Active learningにより、効果的な受講に努める。
- （2）一時的な知識の獲得ではなく、Clinical Clerkship、医師国家試験にも対応できるように知識の保持に努める。

V. 授業計画及び方法 *（ ）内はアクティブラーニングの番号と種類

- （1：反転授業の要素を含む授業（知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。）
2：ディスカッション、ディベート 3：グループワーク 4：実習、フィールドワーク 5：プレゼンテーション
6：その他）

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブ ラーニング
1	4	30	水	3	消化管疾患総論	内科学（消化器） 田 尻 久 雄	1
2	5	1	木	1	食道疾患（腫瘍性疾患）	内科学（消化器） 郷 田 憲 一	1
3		1	木	2	食道疾患の外科治療	外科学（上部消化管） 中 島 政 信	1
4		1	木	3	胃・十二指腸疾患（良性疾患：潰瘍、機能性胃腸症等）	内科学（消化器） 前 田 光 徳	1
5		1	木	4	胃・十二指腸疾患（腫瘍性疾患）	内科学（消化器） 郷 田 憲 一	1

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブ ラーニング
6	5	1	木	5	胃・十二指腸疾患の外科治療	外科学（上部消化管） 森 田 信 司	1
7		1	木	6	小腸・大腸疾患（腫瘍性疾患）	内科学（消化器） 菅 谷 武 史	1
8		1	木	7	小腸・大腸疾患（炎症性腸疾患等）	内科学（消化器） 富 永 圭 一	1
9		2	金	2	食道疾患（良性疾患：胃食道逆流症、静脈瘤等）	内科学（消化器） 郷 田 憲 一	1
10		2	金	3	小腸・大腸疾患（腸閉塞・ヘルニア・肛門疾患等）	外科学（下部消化管） 石 塚 満	1
11		2	金	4	小腸・大腸・肛門疾患の外科治療（大腸癌・炎症性腸疾患の手術）	外科学（下部消化管） 水 島 恒 和	1
12		2	金	5	小腸・大腸・肛門疾患の外科治療（大腸癌に対する集学的治療と低侵襲手術）	外科学（下部消化管） 中 村 隆 俊	1
13		2	金	6	消化管の画像診断	内科学（消化器） 田 中 孝 尚	1
14		2	金	7	胆・膵疾患総論	内科学（消化器） 入 澤 篤 志	1
15		7	水	1	下部消化管臨床推論（下痢）統合型講義	内科学（消化器） 富 永 圭 一 病 理 診 断 学 石 田 和 之	1
16		7	水	2	口腔疾患（構造・機能・歯科疾患・口腔ケア）	口 腔 外 科 学 川 又 均	1
17		7	水	3	胆道疾患（良性疾患）	埼玉医療センター 消 化 器 内 科 曾 我 幸 一	1
18		7	水	4	胆道疾患（腫瘍性疾患）	内科学（消化器） 山 宮 知	1
19		7	水	5	膵疾患（腫瘍性疾患）	日光医療センター 消 化 器 内 科 佐 藤 愛	1
20		7	水	6	膵疾患（良性疾患：急性・慢性・自己免疫性膵炎）	内科学（消化器） 入 澤 篤 志	1
21		8	木	1	肝・胆・膵の画像診断	内科学（消化器） 飯 島 誠	1
22		8	木	2	肝疾患総論	内科学（消化器） 飯 島 誠	1
23		8	木	3	急性肝疾患（急性肝炎・薬物性肝障害）	内科学（消化器） 有 阪 高 洋	1
24		8	木	4	肝腫瘍性疾患	内科学（消化器） 小 池 健 郎	1
25		8	木	5	慢性肝疾患（肝硬変・門脈圧亢進症）	内科学（消化器） 眞 島 雄 一	1
26		8	木	6	慢性肝疾患（代謝性・自己免疫性疾患）	埼玉医療センター 消 化 器 内 科 玉 野 正 也	1
27		8	木	7	肝胆膵疾患の外科治療（膵疾患）	外科学（肝・胆・膵） 森 昭 三	1
28		9	金	2	肝胆膵疾患の外科治療（肝疾患）	外科学（肝・胆・膵） 青 木 琢	1
29		9	金	3	肝胆膵疾患の外科治療（胆道疾患）	外科学（肝・胆・膵） 青 木 琢	1
30		9	金	5	肝胆膵臨床推論（黄疸）統合型講義	内科学（消化器） 飯 島 誠 病 理 診 断 学 石 田 和 之	1

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブ ラーニング
31	5	12	月	1	肝胆膵臨床推論（腹痛・背部痛）統合型講義	内科学（消化器） 山 宮 知 外科学（肝・胆・膵） 白 木 孝 之	1
32		12	月	2	上部消化管臨床推論（吐血・下血）統合型講義	内科学（消化器） 菅 谷 武 史 薬 理 学 林 啓 太 朗	1

VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

定期試験、受講態度等を総合的に評価する。評価の割合は、定期試験95％、その他5％とする。但し、合格するには定期試験の成績が60点以上であることが必須である。

なお、定期試験問題内の英語問題は「医学英語Ⅲ」の評価として集計される。

VII. 教科書・参考書・AV資料

教科書は特に指定しないが、いわゆる参考書を越えた、内科学・外科学・病理学の一般的教科書は1冊用意しておくことが望ましい。

VIII. 質問への対応方法

各授業終了後に直接対応。それ以外の場合は教務課を通して質問を受け付ける。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。	◎
	種々の疾患の診断や治療、予防について原理や特徴を含めて理解し、他者に説明することができる。	◎
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。	◎
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	○
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料、情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し、自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し、自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験問題の解答に関する解説をもってフィードバックする。

XI. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

事前資料や教科書を基に、講義テーマについての事前学習を求める。予習時間は授業ごと60分は必要。

XII. コアカリ記号・番号

- PS-01-04（-20～23）
- PS-02-08（-01～-05）
- PS-03-04（-01～-08, -14）,
- CS-02-04（-01, -04, -10, -11, -12, -13, -15～-27, -34, -35, -40～-44）